

# AI及びAIネットワーク化と競争政策・産業組織

AIネットワーク社会推進会議

第4回 環境整備分科会・影響評価分科会 合同分科会

2018年4月26日

大橋 弘（東京大学）

# 論点

- 一般的に、技術から生ずる便益の増進やリスクの抑制において、利用者(需要者)側の視点は、勘案すべき論点。
- 競争政策にとって、当該技術を取り巻く市場環境(言い換えれば、利用者選択肢の確保(とそれに基づく競争の牽引者の存在))が一つの重要な論点。
- AI及びAIネットワーク化においては、それに係る技術の経済的特性から、利用者にとっての便益増進やリスクの抑制には公的観点からの配慮が必要なように思われる。
- ここでは、3つの論点について言及する。
  1. ネットワーク化を通じたAIの協調的行動
  2. 多面性・ネットワーク効果に起因する課題
  3. グローバル化の視点

# 1. ネットワーク化を通じたAIの協調的行動

AIアルゴリズムが一般的になるにつれ、企業の価格づけのあり方が変容。

- 需要動向などの市場環境に細やかに対応した価格づけが可能になる。
- 他方で、企業の意思が必ずしも価格づけに反映されているとは言い難い状況も生じうる。
- 同時に、意図せずしてアルゴリズムを競合企業と共用する場合がないとは言えない。
- アルゴリズムの組み方によっては、アルゴリズム間の協調も杞憂とは言い難い。

こうした論点(デジタル・カルテル)を競争政策上、どう位置づけるかの議論は未だ緒についたばかりか？

## 2. 多面性・ネットワーク効果に起因する課題

- AI及びAIネットワーク化からメリットを受ける利用者（例えば消費者）と、そこから損失を受ける利用者（例えばプラットフォーム以外の関連事業者。特に中小事業者）が共存しうる。
- 後者の利用者のうち、かなりの損失を被る事例が既存産業において見受けられる。
- 事業法で経営の自由度が制限されている産業では、効果的にAI及びAIネットワークを有する事業者と競争できない恐れがある。
- 上の既存産業の苦境は、AI及びAIネットワーク化の効率性を示す一方で、新たな技術が登場しない場合、利用者はホールドアップされる蓋然性も高い。
- 多面性・ネットワーク効果を有する技術において、利用者選択による競争を機能させるためには、制度的な手当等を通じた多様性・公平性の確保が求められないか。

### 3. グローバル化の観点

- AI及びAIネットワーク化の利活用には国境がなく、データの流通・収集・分析に基づく新たな経済領域がグローバルなサイバー空間に広がっている。
- こうしたグローバルなAI及びAIネットワーク化におけるリスクを、利用者が個々に評価・判断することは、容易ではない。
- 利用者の自主性が社会厚生増進に繋がりうる前提として、サイバー空間における公平な国際競争環境の整備や、国際協力のあり方が求められるのではないか。